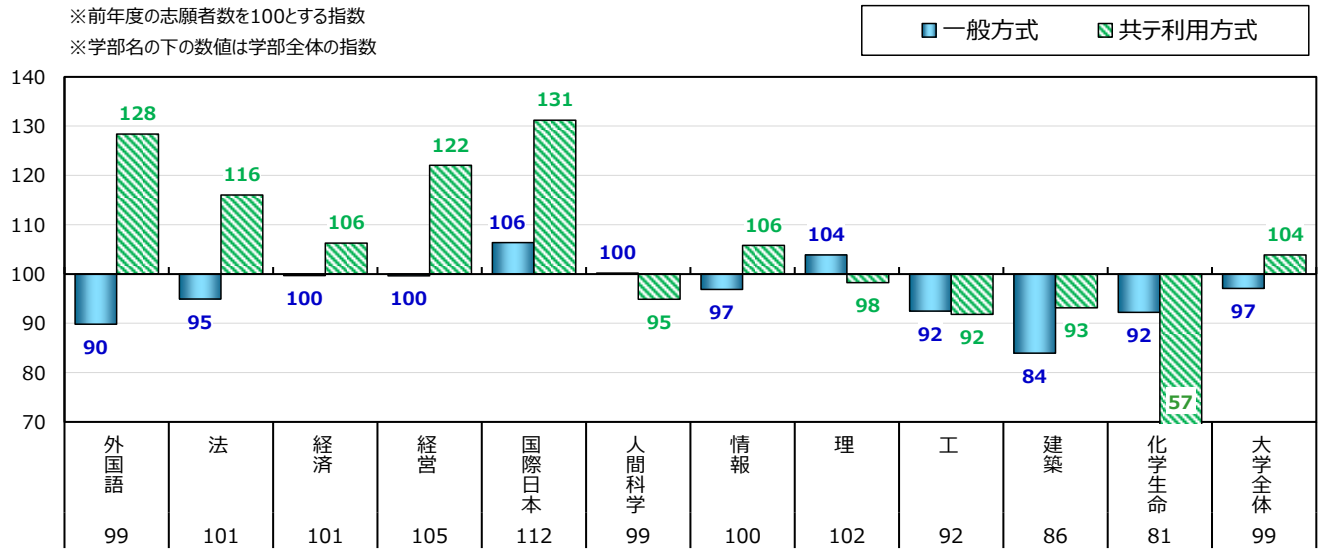


神奈川大：大学全体では微減、11 学部中 6 学部が減少

一般：-687 人 共テ：+333 人



**主な入試変更点** 選抜方法：外国語(英語英文/GEC)＜一般・前期 B 方式＞…新規実施  
外国語(スペイン語、英語英文/IES)、法、経済、国際日本、人間科学＜共テ・後期＞…新規実施  
経済(経済/現代経済)＜一般・前期 A 方式、後期 A 方式＞…1 方式から数学科、地歴公民型へ  
＜共テ・前期 3 教科型＞…1 方式から数学科、地歴公民型へ

**COMMENT** ※( )内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、354 人(99)の微減。志願者数は 3 年連続で 3 万人を上回った。学部別では、11 学部中 6 学部が減少。理系の化学生命(81)の大幅減少、建築(86)、工(92)の減少が目立った。方式別では、一般方式は 687 人(97)のやや減少。共通テスト利用方式は 333 人(104)のやや増加。文系の学部では人間科学(95)を除いていずれも増加。

**<一般方式>**

- 外国語(90)**は、3 年ぶりに減少。学科別では、増減 2 学科ずつ。(英語英文/GEC)(130)、(中国語)(116)は大幅増加。一方で、(英語英文/IES)(79)、(スペイン語)(84)はいずれも 2 年連続増加の反動で大幅減少。
- 法(95)**は、2 年連続増加の反動は小さく、やや減少。学科別では、(自治行政)(121)は 3 年連続大幅増加。一方で、(法律)(85)は大幅減少。
- 経済(100)**は、2 年連続増加の反動はなく、前年度並。学科別では、(経済/現代経済)(102)、(経済/経済分析)(100)はいずれも微増だが 3 年連続増加。(現代ビジネス)(94)は 2 年連続大幅増加の反動は小さく、やや減少。
- 経営(100)**は、前年度並。方式別では、＜一般・前期 B 方式＞(120)は 2 年連続大幅減少の反動で大幅増加。
- 国際日本(106)**は、やや増加。学科別では、3 学科中 2 学科で増加。(国際文化交流)(114)は増加、(日本文化)(101)は微増。一方で、(歴史民俗)(95)はやや減少。
- 人間科学(100)**は、前年度減少の反動はなく、前年度並。方式別では、＜一般・給費生＞(113)のみ増加。
- 情報(97)**は、やや減少。学科別では、(システム数理)(157)は前年度の実質倍率が 2.6 倍と 3 学科中で最も低かったことから人気が集まり大幅増加。一方で、(計算機科学)(71)は前年度の実質倍率が 7.0 倍と 3 学科中で最も高かったことから敬遠され大幅減少、ただし実質倍率は 7.0 倍→7.5 倍にアップ。(先端情報)(102)は前年度並だが、実質倍率は 6.0→10.7 倍にアップ。
- 理(104)**は、やや増加。コース別では、6 コース中 4 コースで増加。(理/地球環境科学)(141)、(理/総合理学)(127)は大幅増加、(理/物理)(108)は増加、(理/生物)(102)は微増。一方で、(理/化学)(89)、(理/数学)(92)は減少。
- 工(92)**は、減少。学科別では、増減 2 学科ずつ。(応用物理)(145)は大幅増加、(経営工)(103)はやや増加。一方で、(電気電子情報工)(84)は大幅減少、(機械工)(89)は減少で、いずれも 2 年連続大幅増加の反動。
- 建築(84)**は、前年度減少に引き続き、大幅減少。学科別では、2 年連続で 2 学科とも減少。(建築/都市生活)(68)は大幅減少、(建築/建築)(94)はやや減少。
- 化学生命(92)**は、前年度旧工(物質生命化)から改組し、改組前との比較で約 3.8 倍増だった反動から減少。(生命機能)(83)は前年度の実質倍率が 8.3 倍と高かったことが敬遠され、大幅減少。(応用化学)(101)は前年度並。

**<共通テスト利用方式>**

- 外国語(128)**は、4 年連続減少の反動で大幅増加。学科別では、(中国語)(132)、(スペイン語)(131)、(英語英文/IES)(126)と 3 学科全てで 30%前後の大幅増加。
- 法(116)**は、前年度減少の反動で大幅増加。2019 年度以降前年度の反動による増減が継続。学科別では、(自治行政)(187)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、(法律)(91)は 3 年ぶりに減少。
- 経済(106)**は、前年度大幅増加に引き続き、やや増加。学科別では、3 学科中 2 学科が減少。(経済/現代経済)(133)は大幅増加。一方で、(経済/経済分析)(56)は前年度約 2.4 倍増の反動で大幅減少、(現代ビジネス)(87)は前年度増加の反動で減少。
- 経営(122)**は、前年度大幅減少の反動で大幅増加。方式別では、1 方式から数学科・地歴公民型の 2 方式に変更した＜共テ・前期 3 教科型＞(127)の大幅増加が目立った。
- 国際日本(131)**は、大幅増加。2020 年度の学部開設後、増加は初めて。学科別では、(日本文化)(140)、(国際文化交流)(130)、(歴史民俗)(127)と 3 学科とも大幅増加。

- 人間科学(95)**は、2年連続減少に引き続き、やや減少。
- 情報(106)**は、やや増加。学科別では、(システム数理)(162)は前年度の実質倍率が 1.9 倍と3学科中で最も低かったことから人気が集まり大幅増加、(先端情報)(101)は微増。一方で、(計算機科学)(78)は前年度の実質倍率が 3.9 倍と3学科中で最も高かったことから敬遠され大幅減少。
- 理(98)**は、前年度並。コース別では、増減3コースずつ。(理/地球環境科学)(124)は大幅増加、(理/生物)(113)は増加、(理/物理)(107)はやや増加。一方で、(理/化学)(74)は大幅減少、(理/数学)(87)、(理/総合理学)(90)は減少。
- 工(92)**は、減少。学科別では、4学科中3学科で減少。(電気電子情報工)(76)は大幅減少、(経営工)(94)、(機械工)(95)はいずれもやや減少。一方で、(応用物理)(151)は大幅増加。
- 建築(93)**は、前年度大幅減少に引き続き、やや減少。学科別では、(建築/都市生活)(80)は2年連続大幅減少。一方で、(建築/建築)(102)は前年度大幅減少の反動はなく微増。
- 化学生命(57)**は、前年度旧工(物質生命化)から改組し、改組前との比較で約 3.3 倍増だった反動から大幅減少。学科別では、(生命機能)(51)はほぼ半減、(応用化学)(63)は大幅減少。